



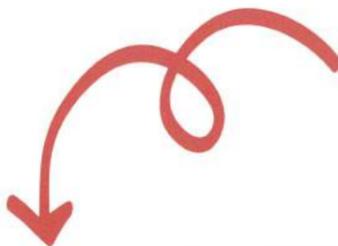
タバコ吸う人集まって~

突然所さんから集合が掛かりました。なんと、コレクションしているビンテージのZippoを大工さんたちにプレゼントしちゃうという大盤振る舞い。『所:じゃ、みんなの生まれ年言ってみてね。1964年はね、はい、コレ。次の人は、1966年かあ、あっ、丁度ココにありますよ。ハイツ次は? えええっ!! 1980年!!!。その時代のはウチに無いからあ……、じゃ、アナタには問答無用で40年代のZippoね。はい、次の人っ!!』

ついに壁の撤去が全て終わり、応接室と執務室が繋がりました。執務室の向こう側には、増築した部屋も繋がっているのので、それも合わせると、全長約17.5メートル。巨大な空間となったのです。この日の作業はコレで終了。明日からは鉄骨を組み上げていくための準備が粛々と進められています。



今まではモノが積み上げられており、イマイチ存在感がありませんでしたが、こちらが応接室と執務室を隔てていた壁。今回計画しているロフトは、なるべく多くの荷物が収容できるように、応接から執務室を横断する形状で設計したので、一旦この壁は撤去する事となります。



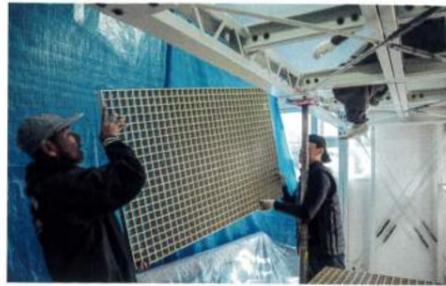
いよいよ工事開始!!
まずは壁を撤去しよう!!

壁撤去



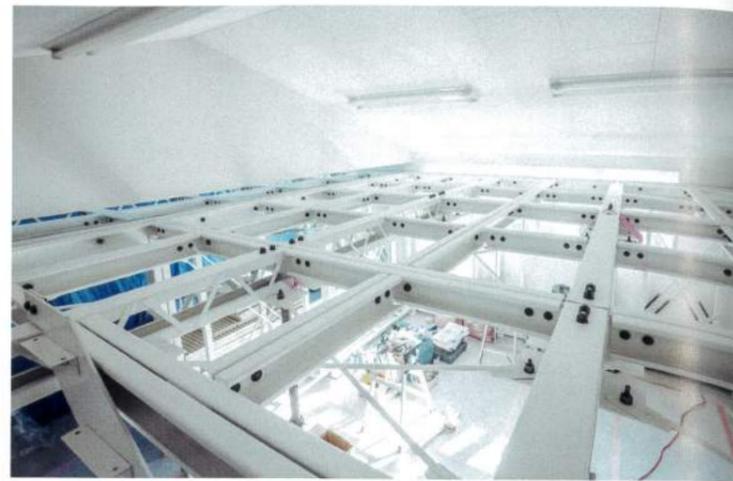
始まったらあつという間
巨大な空間が誕生します

壁に貼り付けてあったフェンスを撤去し、バリバリとベニヤを剥がしていくと、壁の骨格が現れます。徐々に応接室から所さんの執務室が丸見えになってきました。『所:いやあ、この壁を外すところまで俺がやっておきたかったなあ。ベニヤを剥がして骨格を分解してね。うーん、これなら俺にも出来たね(笑)』



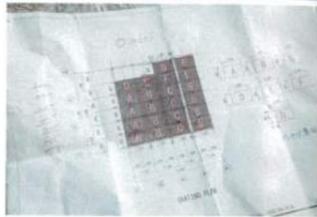
微妙にサイズが違うんです

隙間無くピッタリと床を作るために、場所ごとに細かくサイズが違います。設計図に記載された番号と照らし合わせながらグレーチングを敷き詰めていきます。



いよいよロフトの床を作ります!!

ロフトの下空間になるべく圧迫感が生じないように、穴の開いたグレーチングで床を製作。ロフトのサイズに合わせてワンオフしたグレーチングを順番にロフトにあけていきます。



グレーチングが敷き詰められ完成したロフト部分。天井までの高さは一番高いところで1メートル20センチほど。床面積は約30㎡ほどなので、相当な量の荷物を収容可能となりました。出っ張った蛍光灯は邪魔なので、天井に埋め込めるスポットライトに変更します。

無事骨格が完成した翌日
今度は階段とロフト部分の床を製作していきます
まずは階段から作業開始!!



絵柄としても良い感じ

ロフトは普段使わない荷物を置くためのスペース。なので、日常的にロフトに上がることはないのも、もっと簡易的な階段を設計するというアイデアもありますが、今回はあえて立派な階段を製作。はしごのような簡易的なステップと比べると圧倒的に登りやすく、また、絵柄としての存在感も抜群。



LGSパネルと同じ工場で作られたスチール製のフレームにステップを固定して、階段を製作していきます。ステップはロフト部分の床材と同じペーজのグレーチングを使用することに。まず、フレームにステップを固定するためのプレート装着。その後、ステップを置いて水平を確認しながら一個一個ボルト&ナットで留めていきます。



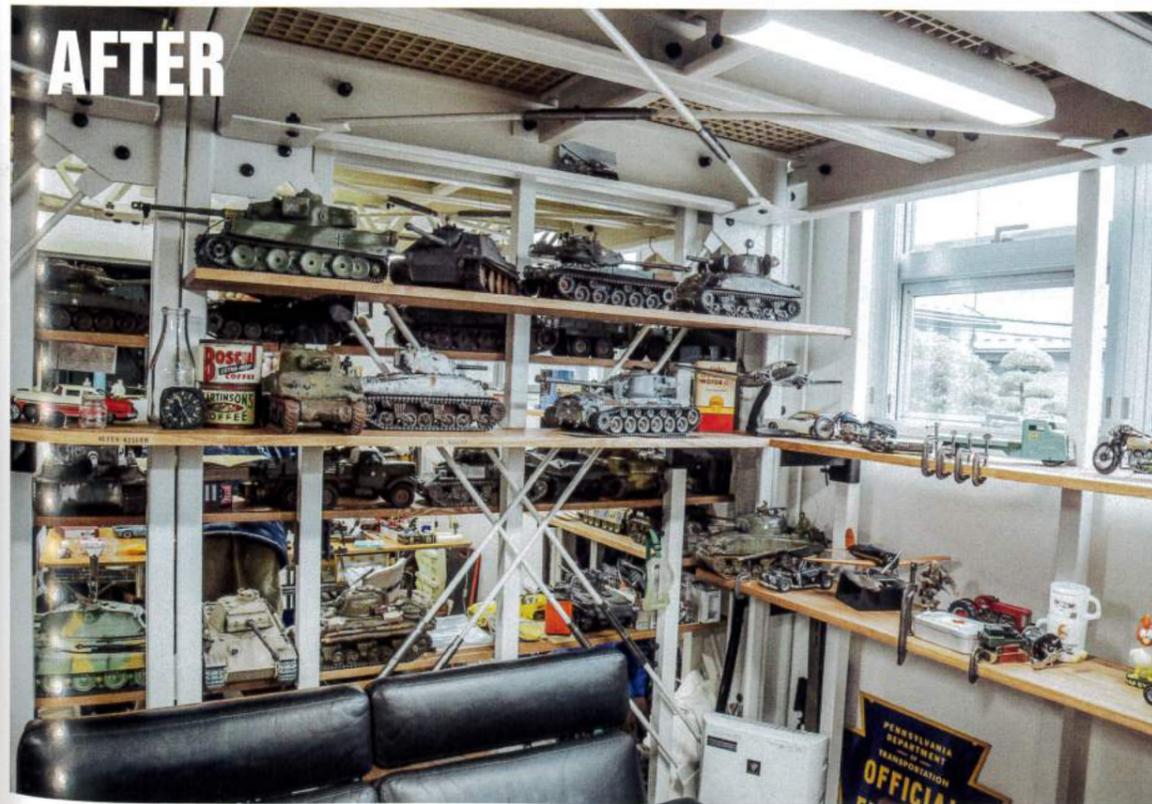
溢れていた荷物が完全にスッキリ

マネージャーのデスクがある場所から撮影した写真。デスクの周りにあったモノは全て整理され、断然広い空間が生まれました。鉄骨とブレースの先に階段が覗く景色がなんと素敵な空間です。



完全に遮断しないうすらとした壁を作ろう

壁を取り外した場所には、LGSのパネルを並べてパーテーションに。写真の状態ですと向こうの部屋が完全に丸見えになってしまっています。そこで、LGSパネルにFASブラケットを取り付けて棚を作り、その上に置いたモノでうすらとした壁を作ってしまうと閃いたのです。



LGSパネルの両面に棚を作り、双方にモノを置く事で、向こう側の景色はほぼ見えない状態になりました。しかし、人の気配や差し込む光の具合などを感じることはできるんです。まるで生け垣のような壁が完成しました。

壁はなるべく無い方が開放的な空間になるんです



こちらが壁があった時代。所さんの部屋と応接は完全に分断されています。壁に沿って、棚が置かれ、その棚の上に荷物が積み上げられていました。丁度、シューティング大会の的が作られていたのもこの場所でした。